※※※※※※※※※※※※※（飯田ふれあい交流センター）※※※※※※※※※※※※※

こんにちは 飯田まち協 です

朝日長者物語　伝説にかかわる地名、風物　その①－1

これまで「七不思議」を７回にわたり紹介してきましたが、今月からは「伝説にかかわる地名、風物」について紹介していきたいと思います。第１回は、【千町無田（せんちょうむた）】です。

飯田高原の東端崩平山の麓に広がる水田地帯、ここを千町無田という。朝日長者初代の浅井藤彦が神功皇后三韓征伐の時、于珠満珠の二つの宝玉の俸持役をしてその軍功により玖珠郡を賜り田野に館を構えて長者となる。

十七代目の浅井長治のとき、時の天皇から朝日の称号を賜り、朝日長者といわれるようになって二千町の美田をもち、九州でも指折りの長者として君臨する。奢が過ぎて遂に没滅するまでおよそ五百年間繁栄をつづけ一族の外に使用人や出入の商人などで数百軒の住家が軒をならべて殷賑を極めた、といい伝えられているところである。　（「九重風物誌」より）

たわわに実った稲穂の「千町無田」

川端康成文学碑　建立５０周年記念事業について　その①

昭和２７年１０月、ノーベル文学賞作家・川端康成が大分県知事（当時の細田徳寿氏）の招聘で九重・飯田高原を訪れました。

雪月花時最思友（碑文）

雪の美しいのを見るにつけ、月の美しいのを見るにつけ、つまり四季折り折りの美に、自分が触れ目覚める時、美にめぐりあふ幸ひを得た時には親しい友が切に思はれ、このよろこびを共にしたいと願ふ、つまり、美の感動が人なつかしい思ひやりを強く誘ひ出すのです。この「友」は、広く「人間」ともとれませう。

（「美しい日本の私 -その序説-」より）

そのご縁を後世に残そうと昭和４８年６月に建碑実行委員会、１１月に川端康成先生景仰会が発足して、翌年の７月２１日に「川端康成文学碑」建立・除幕式が川端秀子夫人のご臨席を賜り、厳かに挙行されました。

今年の１１月、建立５０周年を記念して、碑前祭や「文豪川端康成と画家高田力蔵そして九重」をテーマに記念講演、そして川端康成先生の資料展示と高田力蔵先生の絵画を展示する特別展が九重の自然を守る会を中心に進められています。詳しい内容は後日お知らせいたします。この機会に、是非、ご鑑賞を！

体育・健康福祉部会が家族で“手花火”大会を開催しました!!

８月２３日（金）午後７時半から農協多目的施設（公民館裏）で家族で“手花火”大会が開催されました。これは、令和２年コロナ禍で日常生活にいろいろと制限のある中、頑張っている子どもたちを激励しようと始めた事業で、今回で５回目になります。

当日は、１１家族３６名とスタッフ９名が夏休み最後の金曜日、手持ち花火を楽しみました。

9月1日は、防災の日。　8月30日～9月5日は、防災週間。　9月は、防災月間。

～　「もしも」のときに備えよう！　～